

CHORUS Dashboard からの リポジトリ登録

千葉大学附属図書館の取り組み

千葉大学附属図書館 学術成果リポジトリ担当

[https://opac.LL.chiba-u.jp/da/curator/
ir@office.chiba-u.jp](https://opac.LL.chiba-u.jp/da/curator/ir@office.chiba-u.jp)

2020-02-12

at JST/CHORUS workshop



1. 千葉大学機関リポジトリ CURATOR の15年 と課題



CHIBA UNIVERSITY REPOSITORY
for Access to Outcomes from Research

1-1. 千葉大学機関リポジトリ CURATOR の15年

- ・ 2002年8月 機関リポジトリのプロトタイプ開発開始
- ・ 2003年4月 試験運用開始
- ・ 2005年2月 「千葉大学学術成果リポジトリ運用指針」制定
- ・ 2005年7月 正式公開（国内初の機関リポジトリ誕生）
- ・ 2007年3月 研究データ（デザイン作品）約200点を公開
- ・ 2005～2012年 CSI委託事業を受け、システム開発・
コンテンツ構築・コミュニティ創出支援
- ・ 2016年2月 「千葉大学オープンアクセス方針」制定
- ・ 2016年8月 「CHOR-JST試行プロジェクト」参加
- ・ 2017年12月 「CHORUS Dashboard」有償契約
- ・ 2018年9月 「千葉大学学術リソースコレクション c-arc」
公開（デジタルスカラシップ, IIIF画像）
- ・ 2019年1月 研究データ（植物標本）5万2千件のDOI登録

1-2.千葉大学学術成果リポジトリ運用指針（2005年）

千葉大学学術成果リポジトリ運用指針

平成 17 年 2 月 1 日
附属図書館運営委員会制定

平成 22 年 3 月 30 日
情報化推進企画室図書館専門部会改正

（千葉大学学術成果リポジトリ）

1. 千葉大学附属図書館は、千葉大学（以下「本学」という。）において作成された電子的な学術研究成果を収集し、千葉大学学術成果リポジトリ（以下「リポジトリ」という。）に恒久的に蓄積・保存し、学内外に無償で発信・提供することにより、本学の学術研究の発展に資するとともに、社会に対する貢献を果たすものとする。

（登録）

2. 登録対象となる学術研究成果は以下の要件を満たすものとする。

- （1）学術的な研究の成果であること。
- （2）本学においてその主要な部分が作成されたものであること
- （3）電子的フォーマットで作成されていること
- （4）ネットワークを通じて配信できること

3. リポジトリに学術研究成果を登録できる者（以下「登録者」という。）は以下のとおりとする。

- （1）本学に在籍する、または在籍したことのある教職員及び大学院生
- （2）その他附属図書館長が特に認めた者

4. リポジトリに学術研究成果を登録することを希望する者は、別紙の「千葉大学学術成果リポジトリ登録者申請書」を附属図書館長に提出し、登録システムのユーザ ID 及びパスワードの発行を受けることとする。

5. 登録者は、リポジトリの登録システムを通じて、自らが作成したもしくは作成に関わった学術研究成果を登録することができる。

6. 前二項に関わらず、3 項に定める者の学術研究成果について、作成者（著作権が第三者に譲渡されている場合には、当該著作権者を含む。）の了解が得られた場合には、附属図書館は作成者に代わって当該学術研究成果を登録することができる。

・研究者による
セルフアーカイブを
前提としている

1-3.千葉大学オープンアクセス方針（2016年）

千葉大学オープンアクセス方針

平成 28 年 2 月 15 日 学術研究推進機構 学術資料部門

学術資料専門部会 制定

平成 28 年 3 月 10 日 教育研究評議会 承認

（趣旨）

1. 千葉大学は（以下「本学」という。）、本学に在籍する教員（以下「教員」という。）によって得られた学術研究成果に対する学内外からの自由な閲覧を保証することにより、学術研究のさらなる発展に寄与するとともに、情報公開の推進と社会に対する説明責任を果たすために、オープンアクセスに関する方針を以下のように定めるものとする。

（学術研究成果の公開）

2. 本学は、出版社、学会、学内部局等が発行した学術雑誌等によって公表された教員の学術研究成果（以下「学術研究成果」という。）を、千葉大学学術成果リポジトリ（以下「リポジトリ」という。）によって公開する。

（適用の例外）

3. 著作権等の理由でリポジトリによる公開が不適切であるとの申し出が教員からあった場合は、当該学術研究成果を公開しない。

（適用の不遡及）

4. 本方針実施以前に出版された学術研究成果や、本方針実施以前に本方針と相反する契約を締結した学術研究成果には、本方針は適用しない。

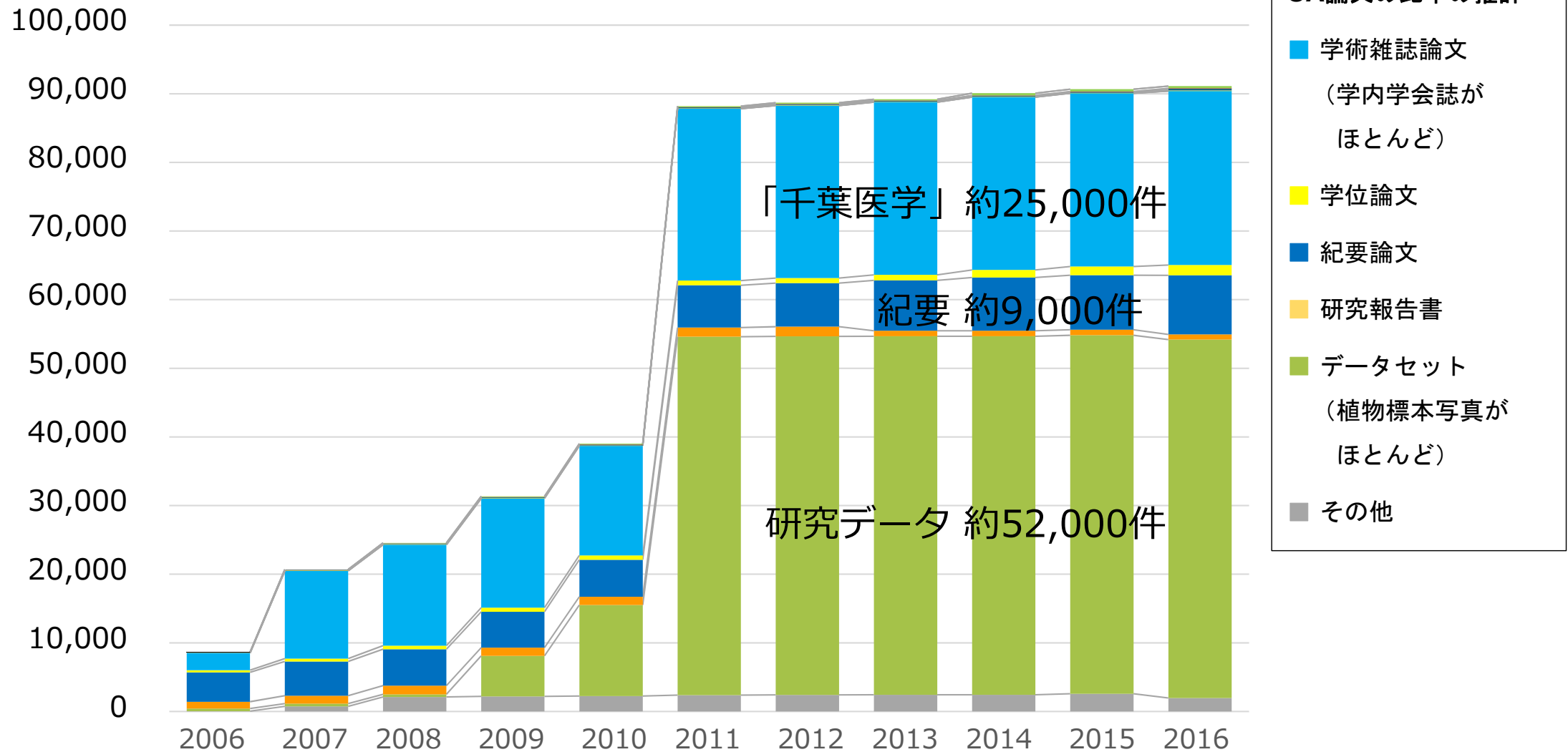
（対象となる学術研究成果の取り扱い）

5. 本方針が適用される学術研究成果のリポジトリへの登録・公開、公開後のデータ利用等、リポジトリに関わる事項は、「千葉大学学術成果リポジトリ運用指針」に基づき扱う。

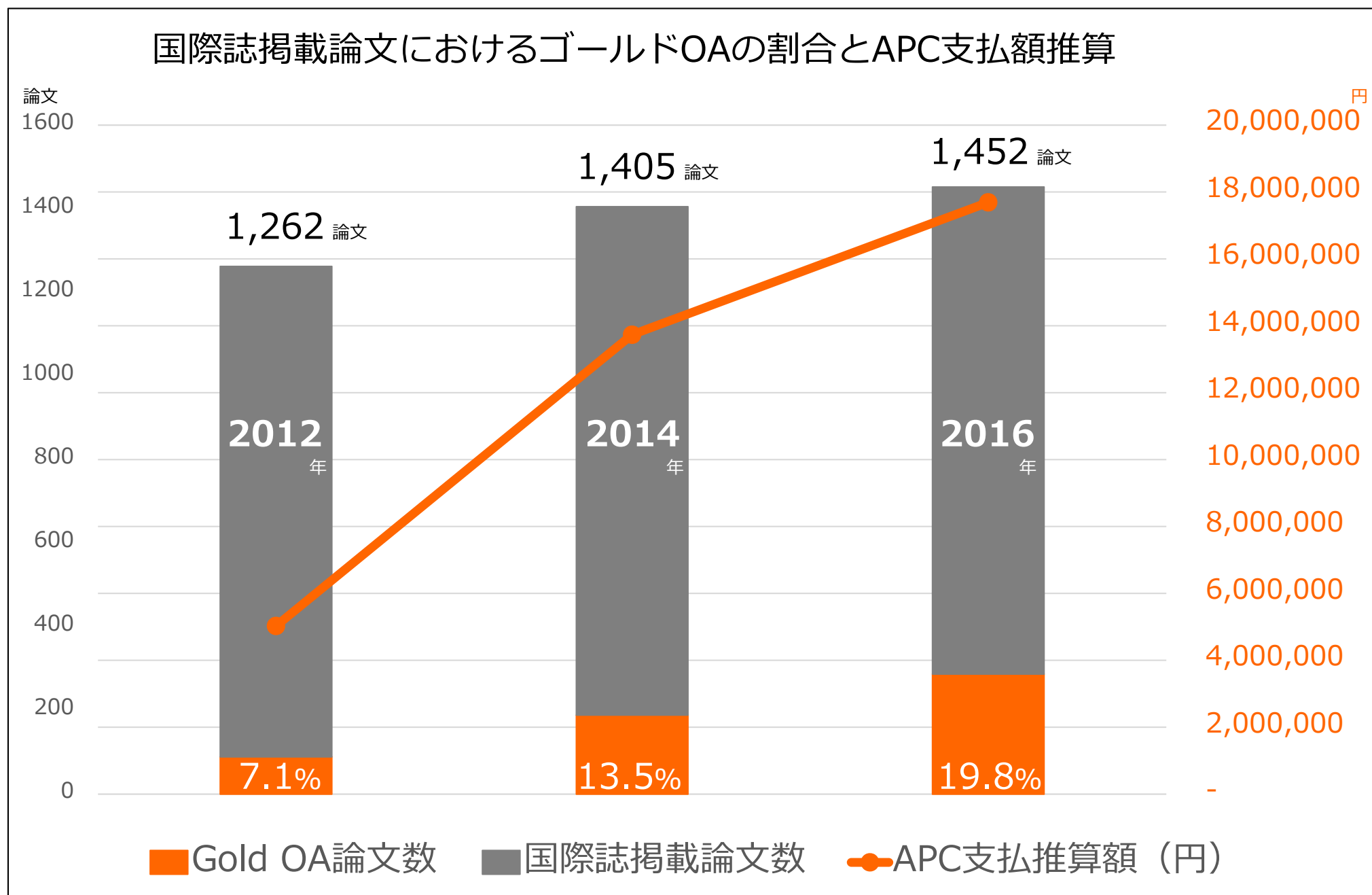
- 学術雑誌等で公表した教員の学術研究成果は機関リポジトリから公開することを定めた
- 千葉大学学術成果への自由なアクセスを保証するという理念

1-4. 千葉大学リポジトリのコンテンツ数の推移とセルフアーカイブ率

千葉大学リポジトリ 資源タイプ別コンテンツ数



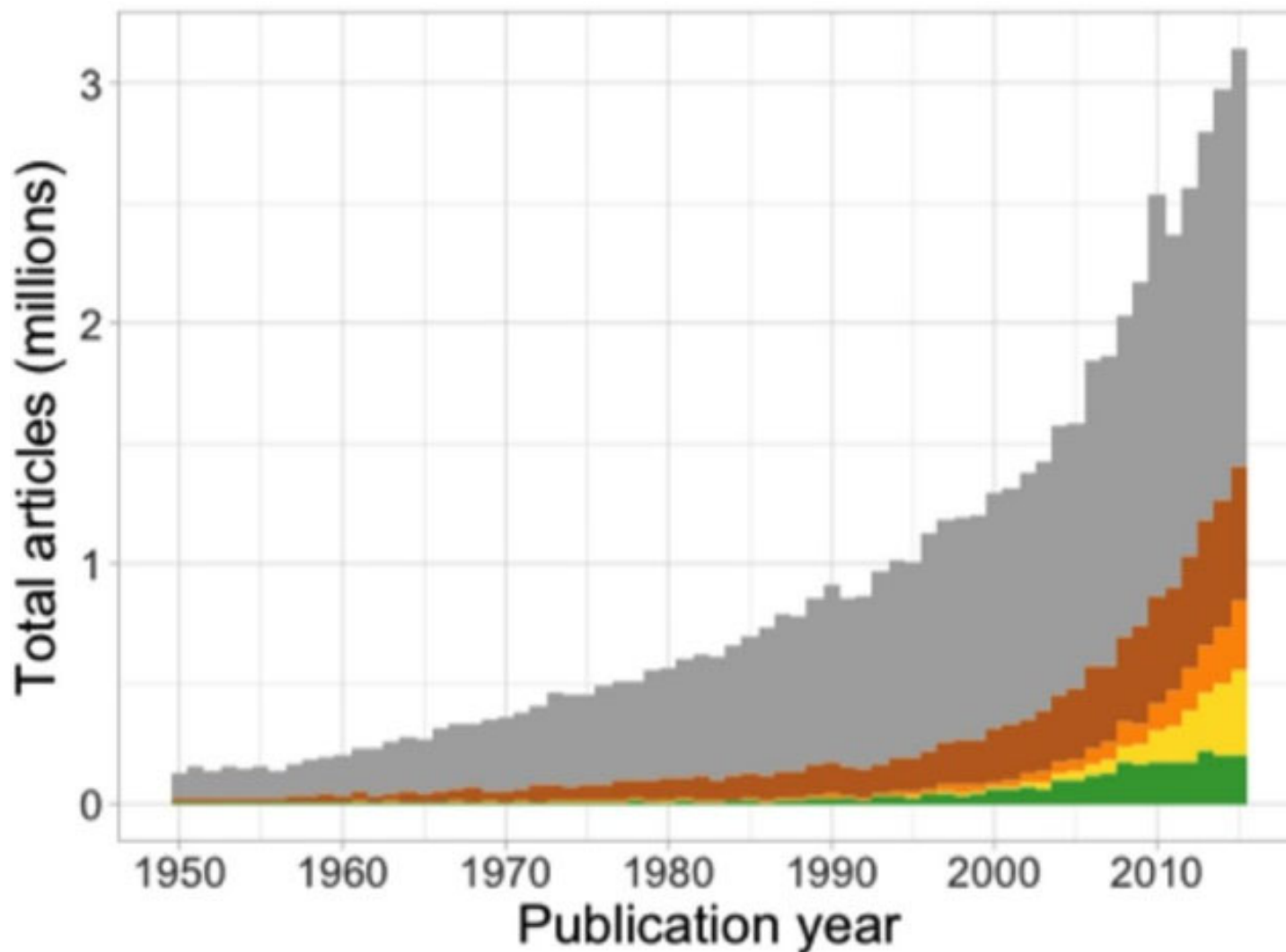
1-5. 千葉大学のゴールド OA論文と APC支払額 の増加



※ Web of Science, DOAJ, TTSLレート による推算。レビュー論文, ハイブリッド論文は推計に含まず (2017-06-01作成)

1-6. 出版社サイトでの OA の世界的増加

OA種別ごとの論文数の推計 (Piwowar et al. 2018)



OA論文の比率の推計

■ **closed** = 下記以外
(ResearchGateなどで共有された論文を含む)

■ **bronze** = 出版社ウェブサイトで公開されているが、ライセンスが明確ではない論文

■ **hybrid** = 読者が購読料を支払うタイプの学術雑誌だが、著者が公開費用 (APC) を支払うことで公開された論文

■ **gold** = 著者が出版・公開費用 (APC) を支払うタイプの学術雑誌に掲載された論文

■ **green** = 有料の学術雑誌に掲載された論文を、著者がセルフアーカイブしリポジトリで無料公開した論文

図: Number of articles with OA copies, estimated based on a random sample of 100,000 articles with Crossref DOIs.
(<https://doi.org/10.7717/peerj.4375/fig-2>) を引用

機関リポジトリで
オープンサイエンスを達成するための
グリーンOA（研究者に作業負担）でも
ゴールドOA（研究者に費用負担）でも
ない方法は？



CHIBA UNIVERSITY REPOSITORY
for Access to Outcomes from Research

2. CHORUS Dashboard から 機関リポジトリへのメタデータ登録

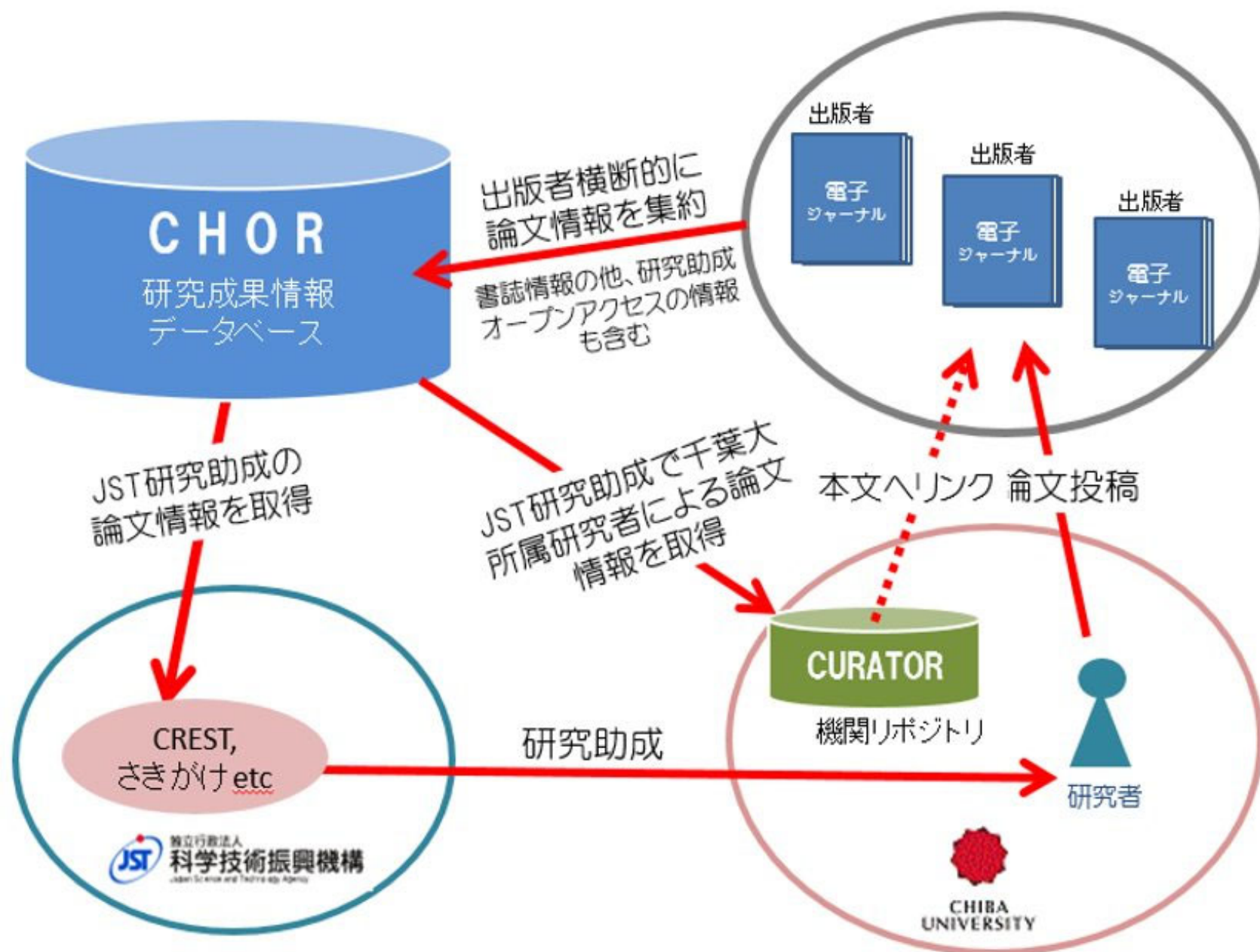
CHORUS *Advancing Public Access to Research*



CHIBA UNIVERSITY REPOSITORY
for Access to Outcomes from Research

2-1. CHOR-JST試行プロジェクト (2016.9~2017.5)

目的：研究者に負担をかけない業務モデルの実験



2-2. CHORUSダッシュボード データ抽出画面

抽出条件 : Verified Open Access on Publishers Site = 'YES'

CHORUS Dashboard Summary **Data?** Stats History Reports▼

Chiba University

☐ Filter: CHORUS Funder Participants

GRID: 136304.3

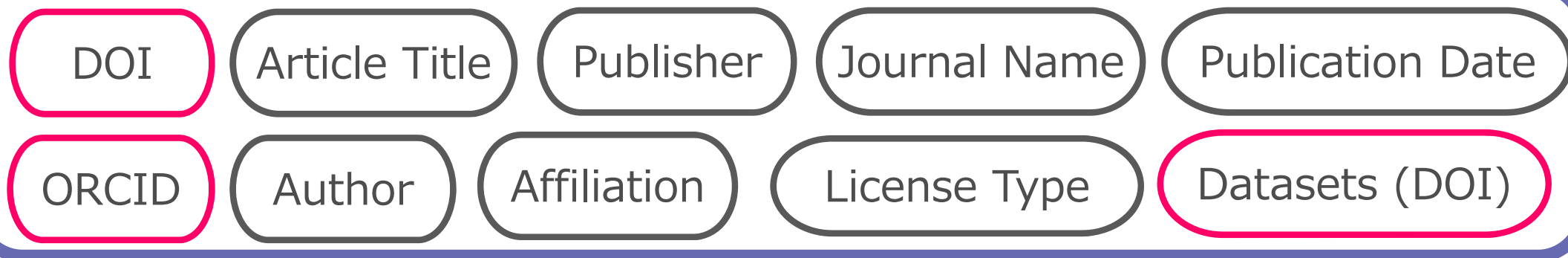
*Data represents number of articles that meet specific criteria audited on the specified date.
Click on any number below to view underlying data and access DOI links that click through to articles on publishers sites.*

Indicator History

Show 25 ▼ entries Search:

Date	# ?	Verified Open Access on Publishers Site ?		Reuse Terms Available ?		Archived ?	
		Yes	Unknown	Yes	Unknown	Yes	Unknown
1/28/2020	1433	329	1104	439	994	1406	27
1/27/2020	1433	329	1104	439	994	1406	27
1/26/2020	1433	329	1104	439	994	1406	27

2-3. CHORUS Dashboard から機関リポジトリへメタデータを登録



CHORUS Dashboard から 抽出

作業①
論文メタデータを
excelの関数で
Junii2形式に一括変換



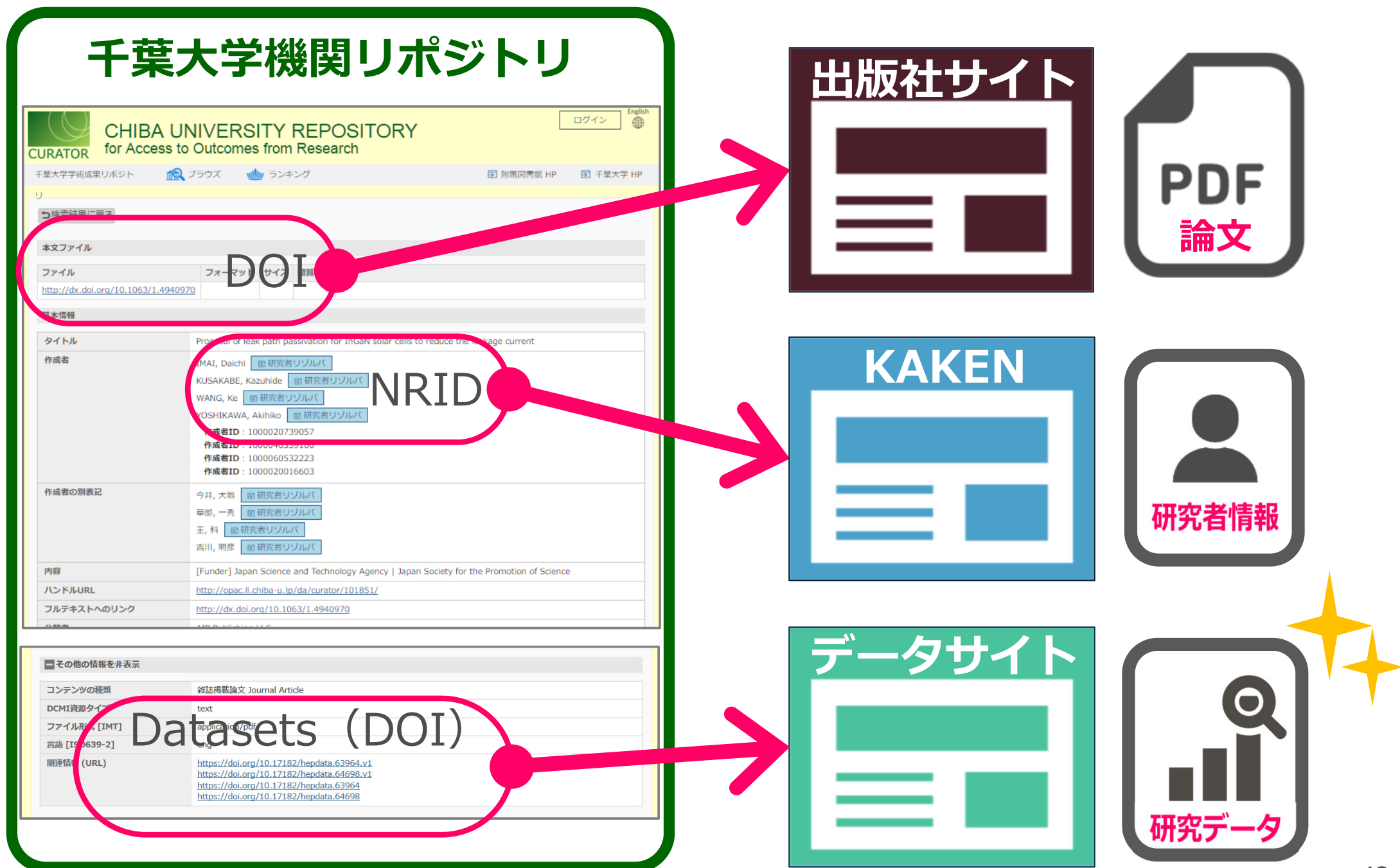
作業②
千葉大学研究者のみ手作業で
日本語氏名・NRIDを追加
(現在は作業を割愛)

千葉大学機関リポジトリ へ 登録

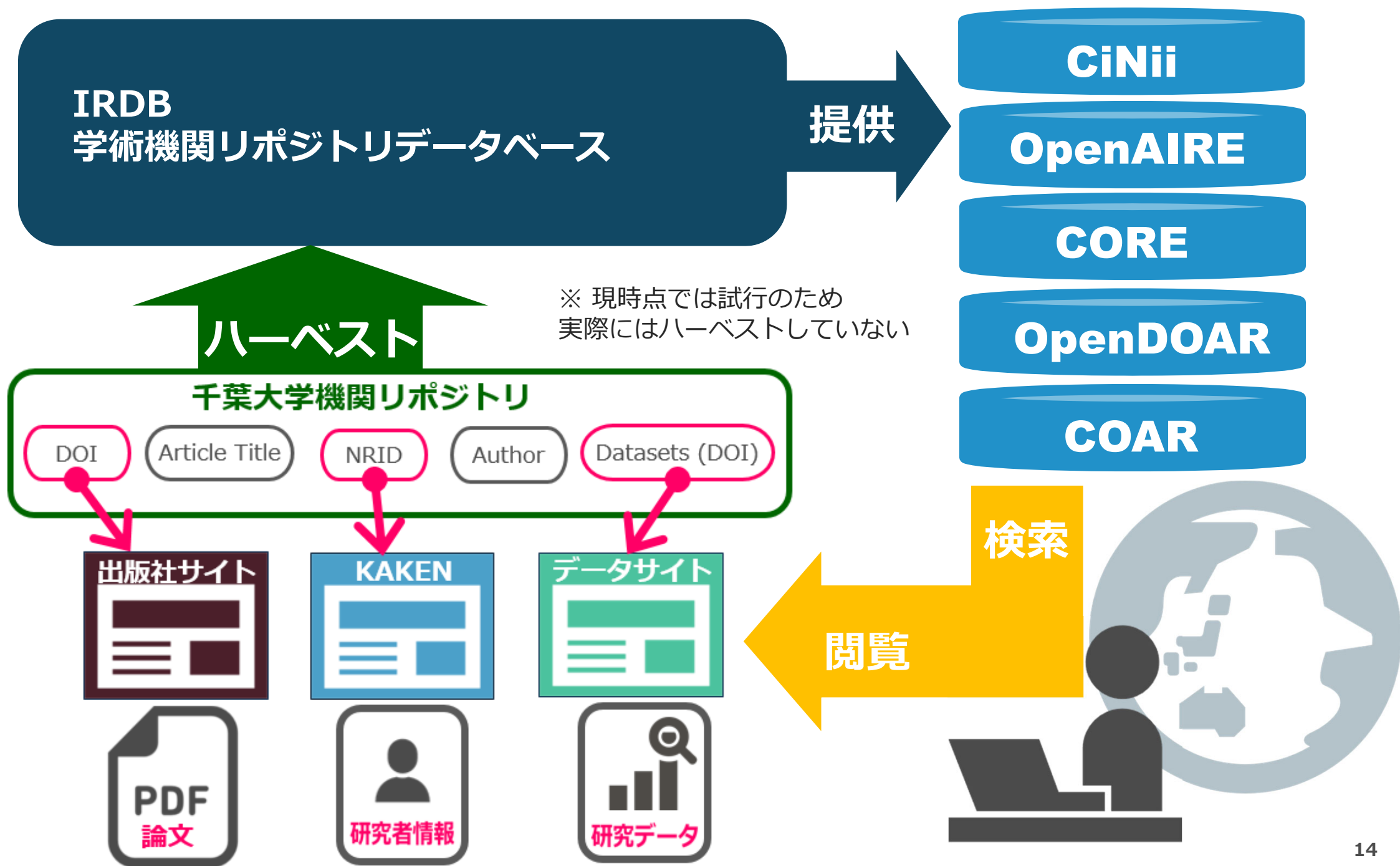
※ メタデータのみ登録し本文ファイルは登録していない



2-4. 千葉大学学術成果リポジトリで公開



2-5. IRDB からの学術流通の可能性

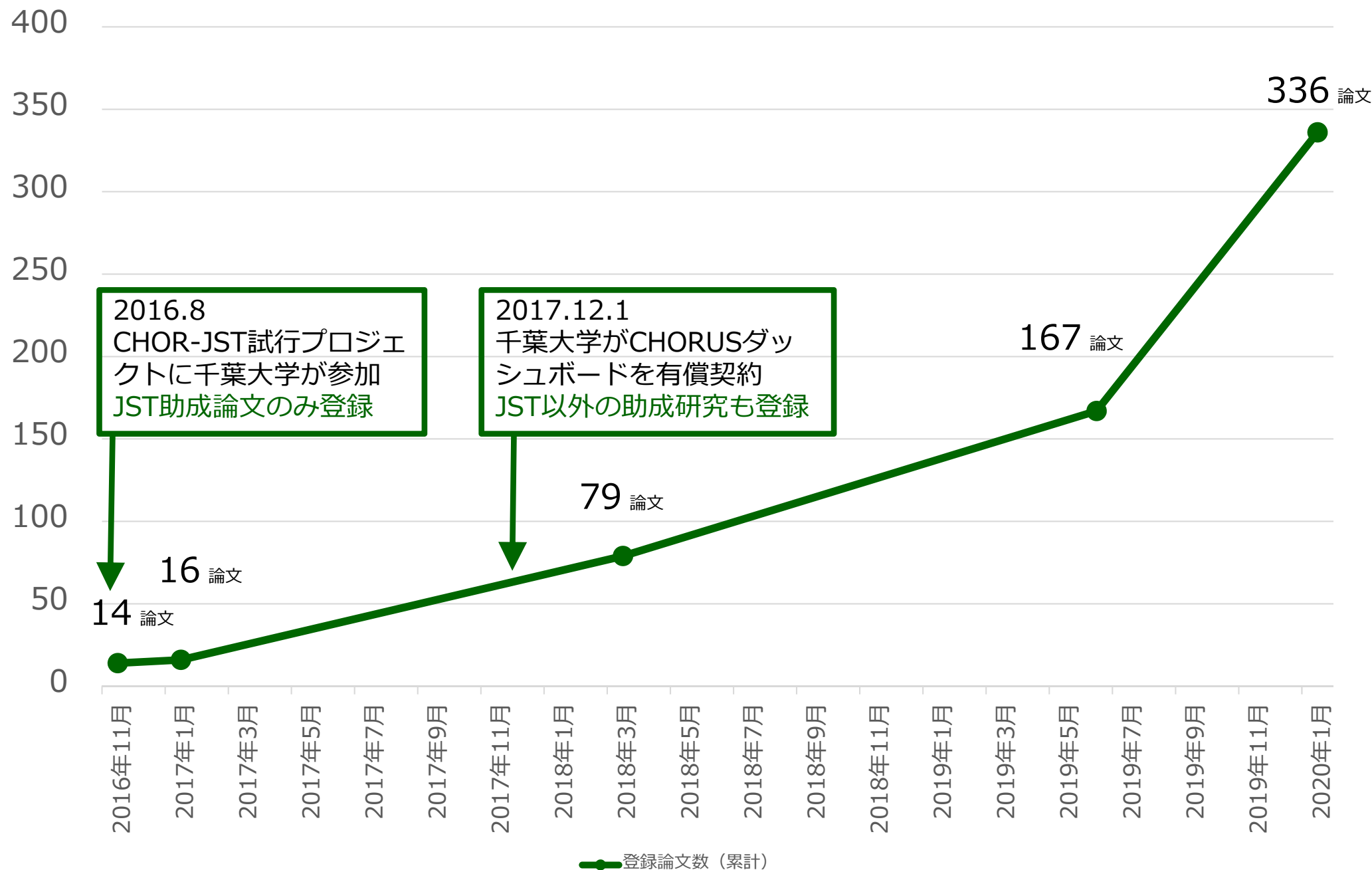


3. 取り組みを通しての評価



Advancing Public Access to Research

3-1. CHORUSダッシュボードからリポジトリへの登録論文数



3-2. CHORUSダッシュボードの評価

評価：

- CHORUSの取り組みは、出版社の自主的なOAを促し、**短期的なOA推進**の手法として意義がある
- CHORUSダッシュボードを利用したリポジトリ登録は**研究者に作業負担・費用負担がない**
- テキストバージョン管理・エンバーゴ管理は出版社サイトで行われ、図書館での管理負担がない
- 著作権許諾手続きへの図書館・研究者の負担がない
(国際論文は共著者100人以上が1割あまり)
- 論文に関連する**データセットのDOI**が入手できる
- CHORUS加盟出版社・助成機関が増加し、**カバー率が向上**している

3-3. CHORUSダッシュボードの評価

評価：

× 機関リポジトリで**本文ファイル**が確保されない

△ **カバー率**のさらなる向上

CHORによるOAの状況の確認作業は、CHORUS
加盟助成機関（現在11機関）に限られる

△ 詳細な書誌情報・研究者情報は提供されないので、
機関リポジトリに登録時に**メタデータ補完**が必要
特に研究者情報（日本語氏名・NRID）の補完に
膨大な労力がかかる

→ PID を利用し他DBから機関リポジトリへ
取り込む仕組みが必要

3-4. 千葉大学での今後の取り組み

課題：

- ・ 業務フローの改善 (**PIDによるリゾルブ**)
- ・ ORCID・研究者所属・助成機関名等の情報の
千葉大学リポジトリへの取込み
→ JPCOARスキーマの適用
→ ORCID取得の促進
- ・ CHORUSの捕捉率向上のため、論文の謝辞や投稿時に
助成機関名・Funder ID・ORCID等を記載するよう
研究者へ周知が必要
→ **URA室に情報提供**
- ・ 機関リポジトリの位置づけ検討 (ハーベストを行うか)
- ・ データセットの情報の活用

3-5. 詳しくは

CA1959 CHORUS ダッシュボード・サービスと 千葉大学附属図書館での取り組み

高橋素奈子*
千葉明子†

1. はじめに

千葉大学は、2016年3月に「千葉大学オープンアクセス方針」を策定した⁽¹⁾。この方針では、学術雑誌等によって公表された教員の研究成果を機関リポジトリにより公開することを定めたが、一方で、査読済み学術論文の捕捉率は日本全体でみると6%に過ぎず、研究者自身に機関リポジトリにセルフアーカイブしてもらうことの難しさも指摘されていた⁽²⁾。このため、策定・承認の過程において、研究者に作業負担をかけない形でオープンアクセス(OA)を実現することが課題となっていた。

本稿では、CHORUS機関ダッシュボード・サービス⁽³⁾を利用し、著者に作業負担があるグリーンOAでも、論文処理費用(APC)の費用負担があるゴールドOAでもない、第三のOAの道を探る取り組みを紹介する。

2. CHORUS機関ダッシュボード・サービスとは

CHORUS (Clearinghouse for the Open Research of the United States)は、研究資金を得てなされた研究の成果を、容易かつ永続的に、発見可能、アクセス可能、検証可能とすることを旨として、資金助成機関、出版社、研究者、及び研究機関が研究論文のパブリックアクセスを実現することを支援するイニシアティブである⁽⁴⁾。運営は、米国に拠点を置く非営利団体CHOR, Inc.が行っている。

CHORUSには、Elsevier、Wiley、Springer Nature等主要な学術出版社60社⁽⁵⁾⁽⁶⁾が加盟し、出版社ウェブサイト上で“Publicly accessible versions”(出版社が受理した著者最終版、または出版社版のいずれかのバージョン)の提供を促している。CHORUSは、加盟する出版社

「CHORUSダッシュボード・サービス」⁽⁸⁾とは、CHORUSに加盟する資金助成機関10機関⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾から助成を受けた研究で、CHORUS加盟出版社が出版した全ての論文の情報とOAの状況を、CHORUSがモニターしデータ提供するサービスである。日本の資金助成機関では、科学技術振興機構(JST)が加盟している。CHORUSダッシュボードで提供されるデータは、Crossref、Funder Registry (旧 FundRef)、Scopus、ORCID、Scholix、Portico及びCLOCKSS、並びにAtypon等の電子出版インフラを用いて収集されている⁽¹¹⁾⁽¹²⁾⁽¹³⁾。学術情報流通に関わる既存のインフラを連携させ活用し、情報提供していることが特長である⁽¹⁴⁾。

このダッシュボードには、研究機関向けと資金助成機関向けの2種類がある。千葉大学が契約した研究機関向けの「CHORUS機関ダッシュボード・サービス」では、所属研究者の論文についてデータが提供され、(1)統計グラフの表示(CHORUS捕捉論文数の推移の線グラフ、出版社ウェブサイトでのOAが確認された比率等項目別の円グラフ、資金助成機関ごとの論文数の棒グラフ)(図1)、(2)データの抽出(DOIを含む論文単位のデータ、DOIとORCID ID(CA1740参照)を含む著者単位のデータ等)(図2)、(3)CHORUS捕捉論文の検索、といった機能を備えている。

なお、JSTが契約した「CHORUSジャパン・ダッシュボード・サービス」⁽¹⁵⁾は、資金助成機関向けのもので、研究者の所属機関に関わらずJSTの助成を受けた論文についてデータが提供されており、ウェブ公開されている⁽¹⁶⁾。

3. 機関リポジトリにおける取り組み

千葉大学は、2016年8月から2017年5月の間、CHOR, Inc.と日本の資金助成機関であるJSTとの間で行われた「CHOR-JST 試行プロジェクト」(E1844参照)⁽¹⁷⁾に参加し、そこでの検証を経て、2017年12月にCHORUS機関ダッシュボード・サービスを有償契約した⁽¹⁸⁾。実験的な取り組みとして、ダッシュボードにある論文情報を機関リポジトリに一括取り込み、DOIを含めて出版社

「カレントアウェアネス」
No.341 (2019.9)
で報告いたしました。

doi: 10.11501/11359092

ご清聴ありがとうございました。

千葉大学附属図書館 学術成果リポジトリ担当

[https://opac.LL.chiba-u.jp/da/curator/
ir@office.chiba-u.jp](https://opac.LL.chiba-u.jp/da/curator/ir@office.chiba-u.jp)

2020-02-12

at JST/CHORUS workshop

